

MIST 会員の先生方各位

令和元年 9 月 28 日(土)に東京慈恵会医科大学にて第 13 回関東 MIST 研究会を開催させていただきました。

各地で会合や研究会がある中、102 名の方々にご参加いただき、盛会のもとに無事終了しましたのでご報告いたします。

第 13 回を迎えた今回は、オープニングシンポジウムで、東京都済生会中央病院の塩野雄太先生に「胸椎経皮的椎弓根スクリューにおける Groove Entry Technique 法の実際」、村山医療センターの松川啓太郎先生に「患者適合型スクリュー刺入ガイドを用いた CBT 固定術-安全性・再現性ある手術の実現にむけた革新-」、慶應義塾大学病院の岡田英次朗先生に「ヘルニア(コンドリアーゼ)による椎間板髄核融解術」についてのお話をさせていただきました。最新の知見を大変わかりやすくお話しいただき、質疑応答も活発に行われました。

一般演題は PPS、LIF、放射線被爆、経仙骨的硬膜外癒着剥離術など、9 演題の幅広い MIST に関するご発表をいただきました。

MIST leader's lecture では名古屋第二赤十字病院の佐藤公治先生に座長をしていただき、4 名の先生にご講演をさせていただきました。

関西医大の石原昌幸先生より「成人脊柱変形に対する eMIS の各種問題点と対策-中期成績の安定化を目指して-」のお話をいただきました。多くの素晴らしい手術症例、術中動画を呈示していただきました。

久留米大学の横須賀公章先生より「経仙骨的脊柱管形成術(Trans-sacral Canal Plasty:TSCP)の有用性」のお話をいただきました。新しい手技を大変わかりやすくご講演していただきました。

三重大学整形外科の明田浩司先生より「生体活性化椎弓根スクリューの開発と MIST への応用」のお話をいただきました。基礎から臨床までをわかりやすくご講演していただきました。

screw loosening を減らし、手術成績を向上させるための情熱を感じさせていただきました。

川崎医大の中西一夫先生からは「高齢者の骨粗鬆症性椎体骨折に対する治療戦略」のお話をいただきました。骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存治療から MIST まで、深く掘り下げていただきました。転移性脊椎腫瘍のリエゾン治療でご高名な中西先生ですが、骨粗鬆症リエゾン治療にも関わっていると聞き、そのバイタリティに感銘を受けました。

特別講演では東京慈恵会医科大学放射線医学講座の中田典生先生に「医療における AI の活用～特に整形外科関連のトピックについて～」のお話をいただきました。関東 MIST 研究会初の AI の講演であり、AI の基礎から現状、今後、医師、整形外科医がどのように AI と関わっていくかについて、最新の topic を交えてご講演をいただきました。Technology の進歩に非常に驚かされたのと同

時に、今後、必ず MIST と関わってくる分野であると認識いたしました。

Best paper award には国際医療福祉大学医学部整形外科の高橋慶行先生の「側方経路椎体間固定術による間接除圧効果の画像的検討-腰椎変性すべり症における術前狭窄の程度に注目して-」が選出されました。

Best discussor award には、中四国からご参加いただき、本質を的確についたコメントをされていた川崎医科大学脊椎・災害整形外科学教室の中西一夫先生が選出されました。

また、同時開催されましたハンズオンセミナー(ナースコース/レジデントコース)は、申し込みは定員を超え、当日申し込み希望者が出るほどの盛況ぶりでした。

今回は定番の PPS、CBT に加えて、BKP、椎弓形成術用プレートのセミナーを開催しました。講師の先生方の熱いご指導のおかげで、セミナー参加者の満足度も非常に高いものになりました。

第 13 回となる本研究会を成功裏に終えることができたのも、多くの先生方や旭化成ファーマ株式会社をはじめ、協賛していただいた企業の皆様のお力添えのおかげと存じます。

また、ご多忙の中、御参加・御発表いただいた皆様には、改めましてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

次回、第 14 回関東 MIST 研究会は令和 2 年 2 月 29 日(土)に東京都済生会中央病院整形外科の塩野雄太会長のもと、慶應義塾大学三田キャンパスで開催される予定です。会員の皆様におかれましては、是非ともご参加いただきたいと思います。

第 13 回関東 MIST 研究会 会長
東急病院整形外科/東京慈恵会医科大学整形外科学講座
小林俊介

